

な資料であることである、錦繪のよいのは勿論前代までいあつて、幕末になると、畫工なども振はないやうに速断してはいけない。本書色摺其他に立派なものもあれば、可驚き輕妙な諷刺畫が多い、單に美術品としてではなく、風俗世相を見るの資料として、恐らくは本書は江湖の歡迎をうくるであらう。(藤田)

.....
雜報

○昭和九年度の日本貿易

本邦重要輸出品表 (一千萬圓以上)
 (モノ三十品種)

綿織物	四九三、三五二	千圓	生糸	二六六、九三三	千圓
人造絹織	一一三、四八四		機械類	七〇、七七七	
鐵	五三、〇〇元		罐詰食料品	五〇、〇〇四	
メリヤス	四七、六二七		車輛及部分品	四、五九九	
陶磁器	四、八七七		鐵製品	三、七三六	
玩具	三〇、六五五		毛織物	二九、八四八	
小麥粉	二六、四三二		木材	三三、九二五	
綿織糸	三三、四八四		人造絹糸	三三、九一九	
履物	二、五四四		紙類	二〇、六五〇	
*硝子及製品	一九、四五四		帽子	一七、六八〇	
水産物	一六、四七三		ランプ及部分品	一五、六九六	

肥料	一四、七九八		砂	一四、五三二
植物性脂肪油	三、二九一		糸	二、一八四
きもの	三、六五五		石炭	一〇、三七五
身邊裝飾品	一〇、〇〇五			
*硝子製品の中魔法瓶を含む				
本邦重要輸入品表 (一千萬圓以上) (モノ二十九種)				
實綿及練綿	七三、四四四	千圓	羊毛	一八六、四四五
鐵	一七一、五三三		礦油	一四四、〇三六
機械及部分品	九六、〇三三		ゴム及樹脂	六五、九八五
豆類	五、九六八		石炭	四七、二九二
肥料	四三、一四〇		紙用パルプ	四四、二五五
小麥	四〇、七四八		木材	四〇、一八三
自動車及部分品	三三、三〇三		飼料	三三、〇七四
銅	二八、三九九		鑛	二七、八〇五
植物纖維(棉ヲ除ク)	三七、四六一		採油原料	三三、二五七
魚介	二〇、二八〇		鉛	一七、九三三
磷礦石	一六、六七七		皮革	一六、三三〇
錫	一五、三三六		食鹽	一四、八三九
硫酸アムモニヤ	一三、八八六		綿織糸	一三、三五一
アルミニウム	三、五五九		紙類	二、九六二

合計換算三億九千七百八十萬弗の輸入に對して三億七千七百十萬弗の輸出となり、二千萬弗の輸入超過となつた。同年英國の輸入は二十億五千八百萬一千弗、輸出十一億九千萬三

十弗、凡そ十億弗の輸入超過である、合衆國は同年輸出十二億五千三百二十萬弗、輸入九億七千四百八十萬弗輸出超過は略ぼ二億四千萬弗である、獨逸でも輸出九億七千九百五十萬弗、輸入十億四千六百五十萬弗で一億弗の輸入超過である、佛國は輸出六億九千八百七十萬弗、輸入九億〇三百五十萬弗で二億萬弗の輸入超過を示めた、日本の貿易も躍進したとはいひながらこれを英米獨佛の先進國に比べると、其貿易額は遙かに少い、もつときばらなくてはならぬ。

日本の御得意即ち輸出國で、一千萬圓以上のを拾うと、第一滿洲四億圓米國三億九千八百萬圓を最高とし英領印度・南領印度・中華民國(一億一千七百萬圓で第五位)、つぎは英國・埃及・濠洲聯邦・海峽植民地・佛國・ヒリッピン・香港・南阿聯邦(約三千萬圓で第十三位)、暹羅・ケニヤ・ウガンダ及タンガニイカ・アルゼンチン・セイロン・獨逸(約二千萬圓で第十八位)、佛領モロッコ・和蘭・イラク(一千七百萬圓第二十一位)、シリア(一千百萬圓第二十二位)、露領アジア(同一千百萬圓第二十二位)の順序であり、玖馬・伊太利・スーダン・アデンこれにつぐ、即ち日本品は東亞は勿論アジア全體、アフリカ全體、南米各地へ進出した、輸入では輸出と凡そ相殺するが濠洲から羊毛二億圓、獨逸から機械一億二千萬圓、露領アジアから三千萬圓、カナダから木材六千二百萬圓、瑞典から鐵で二千萬圓、ノルウェーから千五百萬圓、佛領印度支那などの輸入がある。これらはすべて片貿易であつて日本からの輸入を阻止し

ても日本へ品物を買うことになつてゐるが、これは自他共に慎重に考慮しなくてはならぬ、殆ど輸入なくして日本品を多く買う國々はイラク・シリア・玖馬・アデン・コロンビア・モザンビク・ハイチ・パレスタイン・布哇・パナマ・ソマリランド・メキシコ・ジャマイカ・モロッコ・ニジェリヤ・サルヴァドル・グワテマラ等である額は少いけれども數は多い。日本へは輸出しても殆ど何も買つてくれぬ所は英領ボルネオ(石油?)・瑞西(時計、千萬圓以上)・オーストリアの三ヶ國である。地理を教へる人々はあまり歐羅巴や北米などに力をいれすぎないやうに御願ひすると傳言してゐる。

○陝西省の物産

周秦以後歴代帝都のあつた所で關中の富と強とは以て天下に號令した畿内であつたにも不拘中世以後全く振はずことに民國十五年より十八、九年に至る間兵匪旱災相ついで起り、人口減少全く顧みるものなきに至つた、けれども之を仔細に點檢すれば開發されるべき物産は多い、何といつても昔は六國合従し關を仰いで之を攻めても、勝てなかつたところ、今日でも陝西省中で關中と漢中の兩盆地は土地肥沃で、農林産にとみ、陝北は地曠く人稀なるも石油・毛皮等其産は多い。

民國二十二年の調査によると小麥が農産の首位全體の四十八%強百三十萬餘石、次が豆・大麥・稻及び雜穀で百三十餘萬石、南鄭(漢中)の香米と黒米は味がよい、長安王曲鎮の熟米は煮ると三倍に膨脹するといはれて、局部的に良品種が遺存

してゐる。

同年耕種の綿田は全耕地の九%で三十七縣に跨り同年收棉百四十萬擔に達した、洛水沿岸は涇水沿岸よりも土地が肥えてゐるから他日洛惠渠完成し、阿片の栽培禁絶されたならば農産中棉花は大に増加するであらう、しかし省内一の紡織廠もない、土布もまづいから外貨棉布を輸入してゐるに止まる、林産は梨・棗・桃・杏・葡萄等の果樹の外松・柏・楡・榿・胡桃等の木がある、秦嶺と巴山に産し特産の漆から毎年漆十萬斤十三萬餘元を出す、果樹の産と合せて二十萬元をこえる、各地の森林から木耳がでる、食料の佳品で、毎年百五十萬斤、木耳菌は朽木に生じ褐黒と白色とがある、種植の方法は木をきつて段を爲し日蔭に置いて肥料は施さない、一年で黒耳、三年で止まる、再産は紅黄色で桂花の香がでるから、桂花耳といふ、黒耳よりも價高し、黒耳變じて白色となるは銀耳といふ、毎斤數十元の高價である。

陝南漢江一帯に養蠶を爲すものもある又關中でも長安附近に之を行ひ毎年八十萬元を産してゐる、蠶産の第一にあぐべきは石油である、鐵區の延長は黃河河畔の葭縣米脂を北にして中部部の膚施・中部・宜君の各縣に及び、油泉の先後して湧出して以來既に四五十年に及ぶ、多くは石岩より流出し、或は溝底河邊から水面に湧出す、資本少く機械劣悪で未だ効果がない、民國十六年に月平均七、二〇〇斤、二十年度九、三八五斤二十二年には減じて六、〇九八斤であつた、故に國防設計委

員會で新に資本十萬元で經營し始めた前途有望といはれる、本年になつて民族掃墓を提唱し、咸榆公路を修築し、黃陵所在の中部縣に達せしめて、交通の便をはかつたから、將來大規模の油廠を設計したならば其効驚くべきものがあらう、石炭も亦各地に多く韓城同官の産を最良の無烟炭とし黃河の水運で運び得られる、鐵礦は藍田・鎮安・耀縣・鳳坡・韓城・寶雞・安康・留壩等に産出し鎮安鐵洞溝(漢中)のもの最良で山は數十里の延長がある、鐵石は塊狀で土人が開採し、煉爐があつて熟鐵日産千餘斤と稱する、この外藍田の玉、洵陽の鉛銅、南鄭の砂金、商縣の石棉、秦嶺の翡翠、略陽水及嘉魚石、郿縣及熊耳山の銀鐵、嶓山の碧玉・水晶、同官の磁釉陶土、南鄭の化石等數へ來れば限りがないが、いづれも開發されてゐない。

轉じて陝北の毛皮をみると大荔の製裘業が中心で、洛水の黃河に會する附近の同州府で、西北の羊皮がすべてこゝに集中、年産十萬枚、七、八十萬元に上る、虎・豹・狼・狐等の毛皮、馬鞍等も取引されて七萬元に上り、長安での皮革・皮鞋・皮帶・馬鞍の製造も五萬元の年産がある、各地各地で織絨・彩毯・裁絨毯・毛口袋の土人業があつて十四、五萬元を産する、いづれも北平・天津に出荷したものが關外への輸出百萬元と稱する。但し九、一八事變以後全く萎縮した。

陝北の氣候と地質は内蒙と酷似し、周漢以來の牧畜の區であるが現今は非常に不足して牛・馬・驢を合して二十二萬頭内外に激減してゐる、この地方は一縣數百方里で人口は三萬乃

至五萬に過ぎない、しかし陝南の漢水地方は物産富庶にして江南又は四川に比すべきである、しかし荒地も多いから將來移民墾荒をすべきだが石炭・鐵・石油等の開發にしても第一に政治の改善と交通の改良に伴つて資本の導入を第一としなくてはならない、いづれにしても北支開發を語る人々に對して陝西のこれらの鑛産は將に食指を動かすに足るであらう(藤)

○廣東省の經濟特質

廣東省の經濟は、農村經濟と華僑との關係、香港の影響といふ三點から考察されねばならぬ農村は支那で最も早く歐洲列國の經濟的侵入をうけた所で商品經濟がいちはやく入つて生活の現代化に進んだ、そこで在來の農民副業は次第に打擊をうけ、日常必需品は曾ては全部自給自足であつたのに、現在ではすべて購買を餘儀なくされ収入減少支出増加の傾向を大にし、勢ひ高利貸に對する現金需要が起り、土地を擔保として借つたので土地は遂に商人と地主の手中に歸し、目下自作農は全農家の三〇%、自作兼小作二四%、純小作農四六%、さうして地主は廣東省民全體の二乃至三%である、その所有耕地は三五%、小農は八〇%で其平均耕地面積は總面積の三%に過ぎない、收穫毎に地主は收穫の四〇乃至六〇%を獲得し、定額錢納といつて貨幣で支拂ふのもある、敷金は一畝五元から五十元も出さねばならない、小作料が高いのみでなく、高利貸も中々きついもので九出十三歸といふ語さへある、一元を借りる一日の利が一角即ち一割で、五日が期限だといふ、穀物商人や質屋の貧民剝奪

も甚しく、嘗て米屋から借つて、五元未拂にしておいて二十一年後元利合計六百餘元になつたといふ語さへある、加ふに政府の誅求といふものも多い、そこで農民は最後の手段として妻を賣り、子を賣り、遂に村を離れて華僑となる、廣東の戶數五百四十五萬九千戸の中、農戶三百五十萬に達しない、總數の六三・七%、これを山東や江蘇の農戶七、八〇%に比べて可成りの差がある、そこで海外出稼毎年五、六十萬に達する。

華僑はかくて廣東から南洋へ出てゆく、支那は開港以來七十年對外貿易は殆ど輸入超過であるが之を帳消しにするのは華僑の送金であつて一九三一年二億五千萬元に達した、一九三三年は一億八千萬元に減じ輸入超過は七億元と稱されて支那の經濟界の異變が萌した、勿論支那の輸出入の統計はあてにはならないけれども華僑送金が減少すれば、銀で支拂はねばならないから支那財政は大なる困難に遭遇するのである華僑の海外人員は大數七百五十萬そのうち廣東人は凡六百萬人に達する、一九三一年以後失業した華僑の歸國が著しく一萬五千人にも達したのでその對華僑救濟機關が出来た程であるそこで最近汕頭は非常な不況に陥つた、日貨排斥をしたために華僑は賣る品物がなくなつてかやうな破目になつたといふ最後に香港は南支貿易の中心で、こゝに英國資本として滙豐銀行が本店を有し紙幣發行一億五千餘萬弗に達し決定的に南支の經濟を掌中に收め一億五千萬の中一億二千萬弗は香港に流通し、三千萬弗は南支那沿岸に流通してゐる、南支各省及安南方面までも滙豐銀券は流通圓滑で、廣東廣西ではやゝ經

つた取引はすべて香港那で計算されるといふ次第で、南支に於ける英國の金融支配といふものは特に注目すべきものである。

○秘魯國棉花產出

ペルーにて棉花は輸出農産物中の首位をしめ一九三三年對外輸出額の二三・六%に達し、石油の三六・九%と共に斬然頭角を現はしてゐるが、一九三四年の棉花輸出高は六萬七千三百餘噸で未曾有の増加で一九三〇年の五萬五千噸に比べて、價格五千五百萬ソールから八千七百萬ソールの巨額に上つた、棉花はタンギス・ビーマ・セミアスペロ・米國棉・リントア種等であり、國內機業で消費される額も相當に上つた、カニューテの谷が最大の棉作地でビスコ港及びセロ・アルス港から積出される、棉花の品質がよく世界各地に販路を有し、英國は輸出の六二%次に獨逸は二二・四%、白耳義は遙に下りて三・七%、日本は三・一%、佛國二・七%、伊國一・三%であるが、珍らしくも棉産出國たる印度へも一・八%を輸出するといふ有様である。

一九三四年の輸出先國別數左の如し(單位尙)

英 國	四二、二一〇、四六九
獨 逸	一五、二〇八、二五二
白 國	二、四九七、二二二
日 本	二、〇九八、一九四
佛 國	一、八四九、七七〇
印 度	一、二一四、〇七〇
蘭 國	五〇三、九三七
ボリヴ ア	四七四、一一九
チ リ	三四二、七五八
エクアド ル	一八四、九九三
米 國	一六七、〇一一
計	六七、九三四、一〇四

一九三四年に最高レコードを出した理由は、作付反別の増加、例年水不足地に充分な雨があつたこと、氣候が棉作に有利であつたこと、施肥の普及・新植付が多くなつたこと、種子を吟味したこと及び農業銀行が適切な資金融通をした結果だといふ。